



マーケット・ウィークリー (No.346) 【2015年1月19日～1月23日】

情報提供資料

SMAM

＜マーケットレポート No.3,993＞

2015年1月26日

1. 先週の市場動向

＜株式＞	先々週末 2015/1/16	先週末 2015/1/23	前週比
NYダウ(米国)	17,511.57	17,672.60	0.92%
日経平均株価(日本)	16,864.16	17,511.75	3.84%
DAX指数(ドイツ)	10,167.77	10,649.58	4.74%
FTSE指数(英国)	6,550.27	6,832.83	4.31%
上海総合指数(中国)	3,376.50	3,351.76	▲0.73%
香港ハンセン指数(中国)	24,103.52	24,850.45	3.10%
ASX指数(豪州)	5,299.24	5,501.82	3.82%
＜リート＞	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	190.17	191.93	0.93%
＜債券＞(利回り)(%)	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	1.837	1.797	▲0.040
日本10年国債	0.243	0.234	▲0.009
ドイツ10年国債	0.454	0.362	▲0.092
英国10年国債	1.534	1.478	▲0.056
＜為替＞	先々週末	先週末	前週比
ドル円	117.51	117.77	0.22%
ユーロ円	135.95	131.95	▲2.94%
ユーロドル	1.1567	1.1204	▲3.14%
豪ドル円	96.69	93.19	▲3.61%
＜商品＞	先々週末	先週末	前週比
商品(CRB指数)	224.24	216.61	▲3.40%
原油先物価格(WTI)	48.69	45.59	▲6.37%

【先週の市場の振り返り】

＜株式＞

米国株は上昇しました。IMFが米国の経済成長率見通しを上方修正したことや、ECBが国債などの購入開始を決定したことが主な上昇要因になりました。

日本株は上昇しました。米国と欧州の株価上昇や、為替市場でドルが対円で堅調に推移したことを受けて株価は上昇しました。

＜債券＞

ECBが国債などの購入による金融緩和強化を決定したことにより、ドイツ国債をはじめ主要国の利回りは低下しました。

＜為替＞

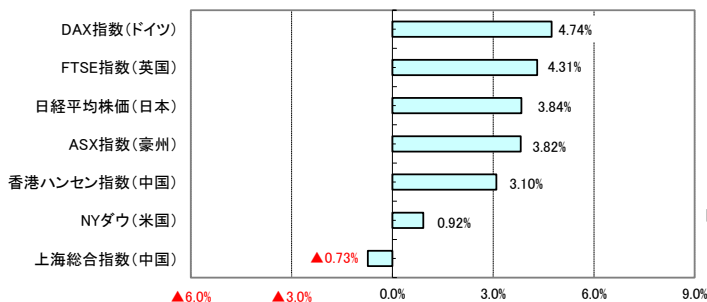
ドル円は、ドルが上昇しました。日銀が物価見通しを下方修正したことから追加金融緩和への期待が強まり、対ドルで円が下落しました。

ユーロ円はユーロが下落しました。ECBの金融緩和強化受け、ユーロは対ドル、対円で下落しました。

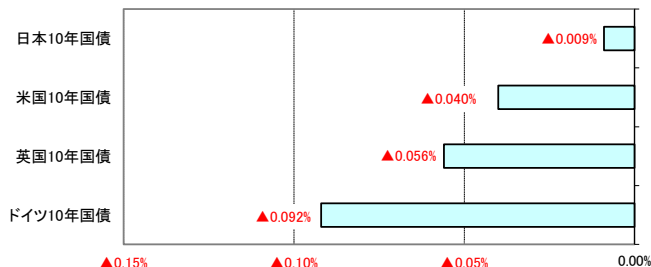
＜商品＞

原油価格は下落しました。イラクの原油産出量増加や、米国の原油在庫の増加などから原油の需給悪化懸念が強まり、原油価格は下落しました。

株式(前週比)

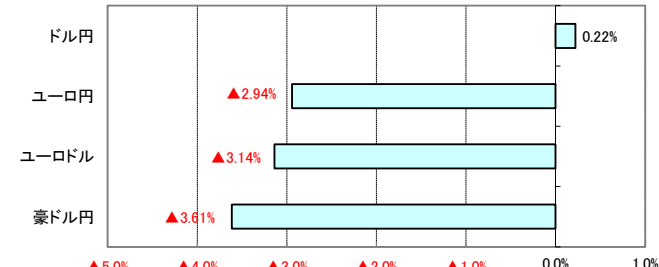


10年国債利回り(前週差)



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

為替(前週比)



※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

当資料の最終ページに重要な注意事項を記載しておりますので、必ずご確認ください。



三井住友アセットマネジメント株式会社

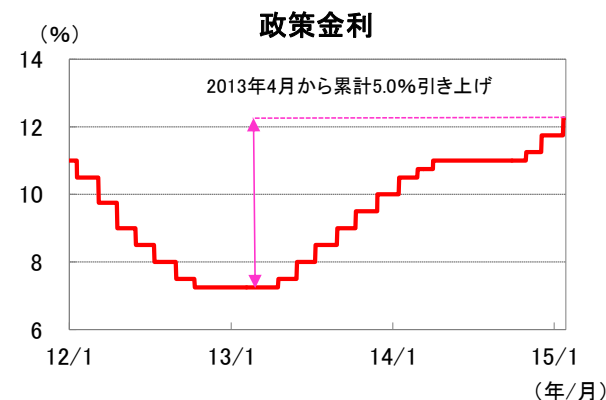
2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
1/19 (月)	先週のマーケットの振り返り	2015/1/12～1/16のマーケットの振り返り
1/19 (月)	中国株の下落について	16日付の大手証券への信用取引口座の開設停止処分の報道などにより、19日の中国株式市場は急落しました。 - 今回の措置は、信用取引が大きく膨らむなかで、一部の投機的な取引を抑制するねらいがあったものと見られます。 - 今回の影響は限定的と見られ、市場の過熱感が落ち着けば、企業業績の拡大に沿った展開が見込まれます。
1/20 (火)	最近の指標から見るインド経済(1月)	12月の輸出は前年同月比でマイナスに転じ、鉱工業生産も伸び悩みなど製造業の活動はやや低調でした。 - インド準備銀行は、15日の臨時会合で物価上昇率の低位安定などから、政策金利を0.25%引き下げました。 - 利下げの継続や輸出の拡大を支えに、インド経済は底堅く推移する見込みです。
1/21 (水)	トルコの金融政策(1月)	- 中銀は20日、金利の正常化を目指し、主要な政策金利を0.5%引き下げて、7.75%とすることを発表しました。 - 利下げ再開は、金融引き締めや商品価格の下落から物価上昇率が低下傾向にあることが、背景とみられます。 - 投資家のリスク回避姿勢がトルコリラ安要因になっており、通貨の安定が利下げの継続には重要になりそうです。
1/21 (水)	IMFの世界経済見通し改定(1月)	- IMFは19日、世界経済見通しを改定し、2015年と2016年の予測をそれぞれ0.3ポイント下方修正しました。 - 成長率見通しは、主要国では米国が上方修正され、ロシアなどの新興国は原油安などから下方修正されました。 - IMFは成長率の引き上げのため、構造改革やインフラ投資、財政金融政策の必要性に言及しました。
☆ 1/22 (木)	ブラジルの金融政策(1月)	- 中銀は21日、政策金利を3会合連続で引き上げ、12.25%としました。 - 中銀は物価抑制に必要な手段を積極的にとる姿勢を示しており、次回3月の会合でも利上げを続けそうです。 - ルセフ大統領は2期目を迎え、財政再建や物価抑制などを通じ、中長期的な成長率向上を目指すと考えられます。
1/22 (木)	最近の指標から見る中国経済(1月)	2014年のGDP成長率は、消費や投資などの内需が伸び悩み、前年比+7.4%と、前年の+7.7%から鈍化しました。 - 業種別では、鉱工業や不動産などの成長率は全体を下回ったものの、金融などのサービス業は上回りました。 2015年は成長率目標を引き下げ、構造改革と両立する「新常态」を目指す方針と見込まれます。
1/22 (木)	日銀が物価見通しを下方修正	- 日銀は金融政策決定会合で2015年度の物価見通しを従来の1.7%から1.0%へ引き下げました。 - 日銀総裁は、当初2015年度中としていた2%の物価目標の達成時期が後ずれする可能性を指摘しました。 - 物価の下押し圧力は強まっており、4月の会合での追加の金融緩和の可能性が高まりました。
☆ 1/23 (金)	ユーロ圏の金融政策(1月)	- ECBは22日、月600億ユーロの国債、欧州機関債などの購入を含む、量的金融緩和を決定しました。 - ギリシャなどの重債務国の国債も条件付きで対象となり、国債などの購入は3月から実施されます。 - 原油安などから物価目標(年2%近く)達成が難しくなりつつあり、金融緩和策は拡充される可能性があります。

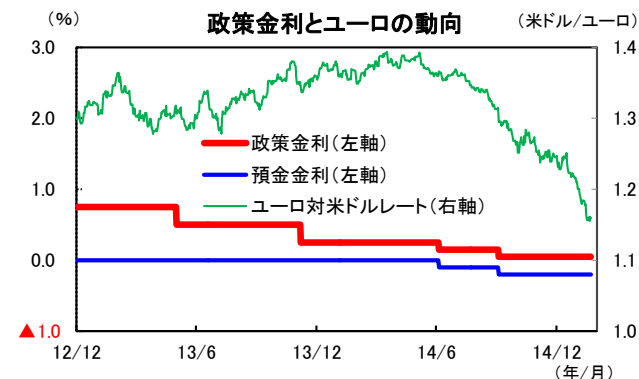
☆ は右の「グラフ・図表」参照

☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆1/22【ブラジルの金融政策(2015年1月)】 3会合連続で政策金利を引き上げ



☆1/23【ユーロ圏の金融政策(2015年1月)】 総額1兆ユーロ超の国債などの購入策を決定





SMAM

マーケット・ウィークリー(No.346) 【2015年1月19日～1月23日】

<マーケットレポート No.3,993>

情報提供資料

2015年1月26日

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
1/26 (月)			ドイツ1月IFO景況感指数	タイ12月貿易統計(27日までに発表予定)
1/27 (火)	11月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 12月耐久財受注 12月製造業受注 12月新築住宅販売件数 1月消費者信頼感指数(コンファレンスボード)	1月中小企業景況判断	英国10-12月期GDP(速報)	タイ12月貿易統計(29日までに発表予定)
1/28 (水)	連邦公開市場委員会(FOMC、27～28日) ☆			タイ12月製造業生産指数(30日までに発表予定) 豪10-12月期消費者物価指数 ☆
1/29 (木)	12月中古住宅販売成約件数	12月商業販売統計	ユーロ圏1月景況感指数 ☆	タイ金融政策決定会合
1/30 (金)	10-12月期GDP(速報)	12月住宅着工件数 12月消費者物価指数 ☆ 12月鉱工業生産指数 12月家計調査 12月完全失業率・有効求人倍率	ユーロ圏12月失業率 ユーロ圏1月消費者物価指数(速報) ☆	フィリピン10-12月期GDP 南アフリカ金融政策委員会 メキシコ金融政策決定会合
☆ 今週の注目点	実質ゼロ金利政策維持の期間について、 声明文での表現が注目されます。	日銀は物価見通しを下方修正しており、 足元の物価動向が注目されます。	ユーロ圏の景況感や消費者物価指数 が注目されます。	原油価格の下落の豪州の物価への影響が注 目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

先週の注目の「マーケット・デイリー」

2015年01月22日 ブラジルの金融政策(2015年1月) 3会合連続で政策金利を引き上げ【デイリー】

2015年01月23日 ユーロ圏の金融政策(2015年1月) 総額1兆ユーロ超の国債などの購入策を決定【デイリー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2015年01月19日 先週のマーケットの振り返り(2015/1/12-1/16)【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2015年01月05日 先月のマーケットの振り返り(2014年12月)【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2015年01月22日 モディ首相の「投資誘致」(インド)【キーワード】

弊社マーケットレポート

検索!!

当資料の最終ページに重要な注意事項を記載しておりますので、必ずご確認ください。



三井住友アセットマネジメント株式会社



SMAM

マーケット・ウィークリー(No.346) 【2015年1月19日～1月23日】

<マーケットレポート No.3,993>

情報提供資料

2015年1月26日

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、投資信託は預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

- ◆直接ご負担いただく費用・・・申込手数料 上限3.78%（税込）
 - ・・・換金（解約）手数料 上限1.08%（税込）
 - ・・・信託財産留保額 上限3.50%

- ◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限年 2.052%（税込）

- ◆その他費用・・・監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託（基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。）における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休業日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

[2014年4月1日現在]

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



三井住友アセットマネジメント株式会社